

国際化学肥料ニュース（2024年10月）

肥料業界の2024年10月動態

- * 9月第4週（23～29日）の尿素国際相場はイスラエルとレバノンの武装組織ヒズボラとの戦闘激化およびインド RCF 社の尿素国際入札の影響により引き続き上昇している。エジプトの大粒尿素的の FOB 価格は1週間で17ドルも上昇し、387ドル/トンになった。アメリカの FOB Nola は6月以来初めて330ドル/トンを超えた。
一方、8月29日に締め切ったインド NFL 社の前回尿素国際入札に契約した112.7万トン尿素は9～10月に輸入されるため、すでにサウジアラビアとオマーンからそれぞれ5隻、UAE から3隻、カタールとバーレーンからそれぞれ1隻の船が予約または実際に運行されていることが判明された。
- * 世界貿易調査機関 GTT のデータによれば、ブラジル2024年1～8月の塩化加里輸入量が995.4万トンに達し、2022年同期の最高記録より5.5%増で、新記録を樹立したうえ、世界最大の加里輸入国となった。多量の塩化加里を輸入する原因は2つある。一つは大豆の豊作と価格の上昇で、大豆農家が加里肥料を多く施用する意欲が高くなった。もう一つは尿素と DAP、MAP に比べ、塩化加里の単位養分価格が一番安く、入手もしやすいと推測される。
- * インド RCF 社の尿素国際入札が10月3日に開札された結果、最低応札価格は CFR 西海岸 364.5ドル/トン、CFR 東海岸 389ドル/トンで、前回（8月29日締切りと開札）に比べて、それぞれ24.5ドル、39ドル高くなっている。あまりにも高いため、RCF 社は契約しないまたは契約数量を控える可能性がある。
- * 10月第2週（7～13日）の尿素国際相場は前週開札されたインド RCF 社の尿素国際入札の影響を受け、引き続き強気を示している。東半球ではインドと東南アジアの需要が旺盛で中東尿素的の FOB 価格が360～370ドル/トンに上昇した。西半球ではエジプト産大粒尿素的の EU 向けの FOB 価格が405～407ドル/トンで、8ヶ月ぶりに400ドルを突破した。ロシア産尿素的の FOB バルト海価格も320～330ドル/トンに上昇した。大粒尿素的の CFR ブラジルが375～390ドル/トンで、アメリカ産尿素的の FOB Nola も330～342ドル/トンに上がった。
- * アメリカの Mosaic 社は大型ハリケーン「ミルトン」の被害状況とその後の対策を発表した。被害を抑えるため、ハリケーンが上陸する前に工場を含むフロリダにあるすべ

ての業務を事前に停止した。ハリケーンが過ぎた後の初期点検によると、工場設備と倉庫の製品への被害は限定的であった。また、10月14日現在、すべての施設電力が回復され、港も再開された。工場の現場修復と清掃が完了し、今後数日を経て完全稼働に戻ると予想される。

また、Mosaic社はハリケーン「ミルトン」によるりん酸肥料生産への影響は20～25万トンと予想している。

* 10月12日、インドRCF社の尿素国際入札は応札の10社に56.9万トン尿素を購入する意向書を送付した。その内容は9社からCFR東海岸389.00ドル/トンで51.9万トン、1社(Liven社)からCFR西海岸364.50ドル/トンで5万トンの合計56.9万トンを契約することである。

* ノルウェーのYara社はベルギーにあるTertre窒素肥料工場を改造する案を公開した。2010年代以降、Tertre工場は高騰する天然ガスの価格と高い設備維持費に悩ませ、長期にわたって赤字に陥っている。さらに環境規制の厳格化と脱炭素化の加速化により、Tertre工場のアンモニア生産に対する圧力が高まっている。

改革案はアンモニア合成設備の閉鎖と競争力のある高級硝酸塩肥料と工業用窒素化学薬品への生産に転換する内容である。他拠点生産のアンモニアに置き換えることで、最も収益性の高い製品である高級硝酸塩肥料と工業製品に再び集中させることが目的とされている。改造後、Tertre工場は年間60万トン高級硝酸塩肥料と25万トン工業用窒素化学薬品を生産する予定である。将来的に低排出アンモニアに移行することで、低炭素の硝酸塩肥料を供給することも想定している。

* 中国税関の速報によれば、2024年9月の中国化学肥料輸出量323万トン、その内訳は尿素が99.2%減の0.95万トンしかなく、硫安が24.6%増の172万トン、DAPが83.3%増の66万トン、MAPが33.3%増の12万トン。1～9月の3四半期に中国化学肥料輸出量が1.3%増の2,295万トン、金額が13.7%減の61.95億ドル。その内訳は尿素が91%減の25万トン、硫安が19.5%増の1,176万トン、DAPが8.9%減の329万トン、MAPが2.3%増の157万トン。

一方、9月の化学肥料輸入量130万トン、その内訳は塩化加里が10.5%増の116万トン、NPK化成肥料が22.2%増の11万トン。1～9月の3四半期に中国化学肥料輸入量が12.2%増の1,038万トン、金額が19.8%減の34.43億ドル。その内訳は塩化加里が14.5%増の924万トン、NPK化成肥料が2.5%減の94万トン。

* 10月第3週(14～20日)の尿素国際相場は地域によってその表現が異なる。東半球ではインドの尿素国際入札の影響が残り、11月に新しい尿素国際入札を行う噂もあるた

め、中東と東南アジア尿素価格が押し上げられた。中東産大粒尿素の FOB 価格が 375～385 ドル/トン、オマーンの 11 月下旬船積みの 1 船大粒尿素が FOB390 ドル/トンと要求される噂がある。

一方、西半球では南米の需要が下火となり、大粒尿素の CFR ブラジルが前週と同様 375～385 ドル/トンを維持している。FOB アメリカ Nola 価格が小幅に下がって 325～333 ドル/トンとなった。ただし、ナイジェリア Dangote の大粒尿素販売入札では 355～360 ドル/トンの応札があり、前週より 5 ドルも上がった。EU も尿素の需要が低迷し、エジプトの EU 向け大粒尿素の FOB 価格が 400～407 ドル/トンに下がった。

* 国際肥料工業協会（IFA）の最新統計データによれば、2024 年 1～6 月の世界尿素生産量が昨年同期より 371 万トン（5%）増の 8498 万トン、そのうちインド増産量 43 万トン、ロシア増産量 25 万トン、中東湾岸地域増産量 106 万トン、中国増産量 265 万トン。また、尿素の国際貿易ではロシアの輸出量が 79 万トン増、中東湾岸地域の輸出量が 115 万トン増、中国の輸出量が 87 万トン減、エジプトの輸出量が 13 万トン減、北米の輸出量が 10 万トン減である。

* 10 月 17～18 日に開催された中国秋季窒素肥料市場研究会において、中国窒素肥料工業協会の理事長は 2023 年末の中国尿素生産能力約 6823 万トン、2024 年に新たに 374 万トン増加し、約 7200 万トンに達する予測である。また、2024 年の尿素生産量が 5.9%増の 6660 万トンを超えるが、国内肥料需要量が 10%増の約 4200 万トン、工業用などを含めて、国内需要量が 6200～6250 万トンと推定される。もし、中国政府の厳しい尿素輸出規制が続けば、2024 年の供給過剰分が約 430 万トンに達する見込みである。

* カナダ税関の速報によれば、2024 年 1～7 月の塩化加里輸出量が 13%増の 1370 万トン、新記録を樹立した。主な輸出先はアメリカ 730 万トン、ブラジル 210 万トン、インドネシア 86.7 万トン、中国 66.8 万トン、インド 64 万トン。

また、アメリカの 1～7 月塩化加里輸入量が 28%増の 850 万トン、そのうちカナダから 720 万トン（輸送と通関の遅延があり、カナダ税関との統計に誤差がある）、ロシアから 90.1 万トン、イスラエルから 20.2 万トン、ドイツから 6.6 万トン、チリから 5 万トン。

* 10 月第 4 週（21～27 日）の尿素国際相場はインド尿素国際入札の終了と EU 及びブラジルの購買不振により 6 週間ぶりに下落に転じた。西半球では需要不振が明白で、アゼルバイジャンの SOCAR 社、エジプトの NCIC 社、ナイジェリアの Dangote 社は尿素販売入札を行ったが、納入の応札者が現れなかった。それに伴い、エジプト産大粒尿

素の FOB 価格がすでに 390~395 ドル/トンで、3 週間ぶりに 400 ドル/トンを下回った。大粒尿素の CFR ブラジル価格が 370~375 ドル/トンに、FOB アメリカ Nola 価格も 325~331 ドル/トンに下がった。東半球ではインドの新尿素国際入札への期待があり、中東尿素の価格が安定している。また、イラン産大粒尿素の FOB 価格が 327 ドル/トンで若干上がった。

- * 10 月 29 日、インド IPL 社は新しい尿素国際入札を発表した。11 月 11 日締切りと開札、12 月 25 日まで船積みという条件で、目標購買数量は西海岸向け限定の 100 万トンである。これは今年インド 5 回目の尿素国際入札で、10 月 3 日に開札された前回 RCF 社の尿素国際入札から 3 週間しか空けていない。

大手各社の営業業績

- * ノルウェーの Yara 社は 2024 年第 3 四半期の業績を公表した。総売上高が 5.9%減の 36 億 5400 万ドル、EBITDA が 47.7%増の 5 億 8500 万ドル、純利益が 143 倍の 2 億 8600 万ドル、肥料価格の下落で売上高が減少したが、事業の合理化とコストの削減により、四半期としての純利益が史上最高となった。
- * アメリカの窒素肥料メーカー LSB Industries 社は 2024 年第 3 四半期の業績を発表した。アンモニア、硝酸と硝安、尿素硝安液肥の合計販売数量が 11.9%減の 29.1 万トン、純売上高が 4.5%減の 1 億 920 万ドル、調整後の EBITDA が 90.2%増の 1,750 万ドルである。
- * アメリカの窒素肥料メーカー CF Industries 社は 2024 年第 3 四半期の業績を発表した。売上高が 7.9%増の 13 億 7000 万ドル、調整後 EBITDA が 14.8%増の 5 億 1,100 万ドル、純利益が 68.3%増の 2 億 7,600 万ドル。業績が向上した主な原因は天然ガスの価格低下と 2023 年 12 月に買収した Waggaman 社のルイジアナ州にあるアンモニア生産施設によるものである。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * オーストラリアの Perdaman 社は西オーストラリア州 Burrup 半島に約 45 億米ドルを投資して、年間生産能力 230 万トンの世界最大級尿素工場「Perdaman Chemicals and Fertilisers Urea Plant」を建設する。Woodside's Scarborough の天然ガスを原料にして、2028 年完成し、稼働する計画である。
- * カナダの Arianne Phosphate 社はケベック州 Saguenay-Lac-Saint-Jean に開発中の Lac à Paul プロジェクトに世界的な鉱業会社から無担保転換社債による資金提供を受け

たと発表した。Lac à Paul りん鉱山は推定 5 億 9000 万トンのりん鉱石埋蔵量を有し、最大 P2O5 含有量 39%とされている。完成すれば、年間リチウム電池用と食品用高純度精製りん酸 35 万トン、肥料と家畜飼料用一般精製りん酸 22 万トンの生産を目指している。

その他

- * アメリカの Trammo 社はフランス子会社 Trammo SAS を通じてフランスの LNG 会社 Elengy 社と低炭素アンモニア輸入ターミナルプロジェクトに関する覚書を締結した。このプロジェクトは、フランスの Fos Tonkin にある Elengy 社の LNG ターミナル敷地の一部を低炭素アンモニア輸入ターミナルに再開発する計画で、3 万 m³ アンモニア貯蔵タンクの建設も含まれて、年間 20 万トンの低炭素アンモニアを受け入れる能力がある。これにより Trammo 社は低炭素アンモニアをフランスとヨーロッパの顧客に供給できるようになる。
- * 9 月 25 日、メキシコ政府経済省が中国硫安に対するアンチダンピング関税の徴収を停止した。中国産硫安の正当な値段が判定できず、ダンピングの判断ができないという理由である。一方、アメリカ AdvanSix Resins & Chemicals 社およびその他のアメリカ商社がメキシコに輸出する硫安に対して、2025 年 10 月 10 日まで 1 年間に引き続きアンチダンピング関税を徴収する。2014 年 8 月、メキシコは中国産硫安に対してアンチダンピング調査を開始し、2015 年 9 月に 0.0929~0.1703 ドル/kg のアンチダンピング関税を徴収することを決定した。
- * ロシア財務省副大臣 Alexey Sazanov 氏はロシア政府がすでに鉱産物採掘税 (MET) を導入しており、予定通り 2025 年 1 月 1 日から現行の化学肥料輸出関税を撤廃して、延長する可能性がないと述べている。ロシアは 2023 年 9 月 1 日から窒素、加里及びりん酸複合肥料の輸出に暫定的に 7%の関税を徴収し、トン当たりの最低関税がそれぞれ 1100、1800、3100 ルーブルと決定した。また、2023 年 10 月 1 日からルーブルの米ドルに対する為替レートが 80 ルーブルを超えた場合にさらに 3%の関税を上乗せして、輸出関税を 10%にすることも決めた。なお、上記の関税有効期限は 2024 年 12 月 31 日までとされている。
- * オランダの OCI Global 社は 2024 年 10 月 15 日付けで保有するアラブ首長国連邦 (UAE) の尿素メーカー Fertiglobe 社の 50%+1 株の株式をすべてアブダビ国営石油会社 (ADNOC) に売却したことを発表した。売却金額 36.2 億ドル。Fertiglobe 社はアラブ首長国連邦のアブダビに本社を置き、アラブ首長国連邦、エジプトとアルジェリアに

4工場を持ち、年間尿素生産能力660万トン、世界最大の尿素メーカーと輸出商社である。

* ドイツのBASF社はインドのAM Green社と年間グリーンアンモニア10万トンの引取覚書を締結した。その内容はBASF社がAM Green社の揚水発電プロジェクトから得るエネルギーを含む再生可能エネルギーのみを使用して生産されるグリーンアンモニアを年間10万トン引き取り、低炭素化学品の生産に供するものである。この覚書に基づき、BASFとAM Green社は潜在的技術の共同評価を含む、インドにおける低炭素化学品生産の実現可能性調査を実施する予定もある。

* スイスのAtlas Agro社とブラジルのCasa dos Ventos社はブラジルでグリーン肥料プロジェクトの開発契約を締結した。この2社はCasa dos Ventos社の風力・太陽光発電を利用し、電気分解で得る水素を原料にして、Atlas Agro社のブラジルMinas Gerais州にあるUberaba肥料工場でグリーンアンモニアを生産する内容である。プロジェクトは2028年に稼働し始め、年間約53万トグリーン肥料を生産する計画である。

* フランスのTE H2社、CIP社とAP Møller Capital社の3社は共同でモロッコに「Chbika」という大規模な再生可能エネルギーとグリーン水素プロジェクトを開発する。モロッコ南部のゲルミン地域の大西洋岸近くに位置する「Chbika」プロジェクトは1GWの陸上太陽光発電および風力発電設備を構築し、海水を淡水化した電気分解で得る水素を原料にして、欧州市場向けに年間20万トンのグリーンアンモニアを生産することを目指しています。TE H2とCIPは再生可能エネルギー生産（太陽光、風力、グリーン水素、およびその派生製品）の開発、AP Møller Capitalは港と関連インフラの開発を担当する。

* アメリカ農務省（USDA）は肥料生産拡大プログラム（FPEP）を通じて、アーカンソー州、カリフォルニア州、イリノイ州、サウスダコタ州、ワシントン州、ウィスコンシン州の6つの肥料生産プロジェクトに1億2000万ドル以上を助成したほか、食肉および鶏肉産業における加工能力の拡大を目的としたLocal Meat Capacity (Local MCap) 助成金プログラムを通じて、26のプロジェクトに2,020万ドルの助成金を交付したと発表した。

USDAは新規雇用を創出し、国内の肥料生産を増加させるために、現在までにFPEPを通じて67件のプロジェクトに3億6,800万ドル以上を投資した。